ハリー・ポッター シリーズついに完結

6巻までの「あらすじ」

一歳のときに闇の帝王ヴォルデモートに襲われ、両親を失った主人公ハリーポッター。ハリー自身もそのときに襲われたが、奇跡的に生き残る。反対にヴォルデモートは衰え、ハリーは「生き残った男の子」と称される。長い間、親類の家に預けられたハリーはある日、森の番人ハグリッドから魔法使いであることを知らされ、ホグワーツ魔法魔術学校へ入学する。そこでハリーは偉大なる魔法使いにして校長のダンブルドアに出会う。親友となるロンやハーマイオニー、多くの生徒や先生とかかわりながら、ハリーは魔法界の知識や能力を身につけていく。その中で、魔法薬学の教師スネイプとハリーはお互いを憎みあうようになっていった。一方で、「死喰い人」と呼ばれる者たちや、復活を遂げた宿敵ヴォルデモートに命を狙われ、ハリーやその友人は危機に何度も直面する。敵は次第に魔法界全体を支配するようになり、ハリーの居場所は失われていく。「不死鳥の騎士団」と呼ばれる組織が敵に対抗するが、ハリーの名付け親シリウスが殺されてしまう。ハリーは自分の運命を知り、ヴォルデモートを倒すためにダンブルドアと協同して、ヴォルデモードの魂が詰まった「分霊箱」を探すが、その半ばでダンブルドアを失い、魔法界は悲しみに包まれる。

7巻の「見どころ」

ハリーはロンやハーマイオニーとともに恩師ダンブルドアの遺言にしたがって、「分霊箱」探しの旅に出る。途中、多くの仲間を犠牲にしてしまい、悲しみに打たれながらも過酷な運命に立ち向かうハリー。しかし、今はなきダンブルドアの意味深なヒントや謎めいた遺言はハリーを悩ませ、まったく進展のない旅の中でハーマイオニーやロンとの仲間割れがおき、団結力が失われてしまう。

最終的にはロンはハリーのもとを離れることに、さらには、ダンブルドアの伝記が出版され、次第に明かされてゆくダンブルドアの過去の秘密によって、ハリーは恩師に不信感を強め、行く先を見失っていく。魔法省（政府）は敵にのっとられ、ホグワーツも支配されてしまう。もし見つかったら命はないという危険の中、ハリーは各地をまわって情報を手に入れ、両親が眠るゴドリックの谷を訪れ、「死の秘宝」の存在を知る。魔法界の秘宝をめぐって、ヴォルデモートとの最後の戦いが始まった。今明かされた過去とダンブルドアの死の真実とは？死の秘宝の正体とは？そしてハリーの運命は!?

作者紹介

J・K・ローリング

1965年7月31日、英国西部のブリストル郊外で生まれる。わずか6歳で最初の物語をかいたといわれる。

ハリーポッター誕生秘話

J・K・ローリングはマンチェスターからロンドンへ向かう列車の中で物語を思いついた。それがハリーポッターだった。数々の出版社にはね付けられながらも、第1巻『ハリーポッターと賢者の石』を出版。ベストセラーになる。

▶一巻
『ハリー・ポッターと賢者の石』

▶七巻
『ハリー・ポッターと死の秘宝』

読者に聞く「感想」

○スネイプの過去の中で全てが明かされていくのが、たまらなく面白かったです。今まで7巻分のことが一気に頭の中に巡ってつながっていって、すごいと思いました。

○多くを失う中で、最後まで戦ったハリーはすばらしいと思いました。七巻では、今までと違ってハリーは学校に行かず、泥沼化していく戦いの中で生き抜こうとした姿が印象的でした。

○巻を重ねるごとに物語が深刻になっていくのに、それでも希望が見える物語でした。一人ひとりの人物の心情なども見事に描かれていて、感情移入しやすかったです。全七巻の中でどんどん展開がかわって、読みだしたらとまりません。やっぱり最終巻が一番盛り上がって、忘れられない物語でした。